

## 事業評価の結果（内容評価項目）

福祉サービス種別：保育所  
事業所名：辰野町羽北保育園

長野県福祉サービス第三者評価基準の考え方と評価のポイント、評価の着眼点【保育所】内容評価項目に係る判断基準による

○判断基準の「a、b、c」は、評価項目に対する到達状況を示しています。  
「a」評価・・・よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態  
「b」評価・・・aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態  
「c」評価・・・b以上の取組みとなることを期待する状態

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点（実施している場合は■）	講評
A	1 保育内容	(1) 保育課程の編成	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 1 保育課程は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて編成している。 <input checked="" type="checkbox"/> 2 保育課程は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて編成している。 <input checked="" type="checkbox"/> 3 保育課程は、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して編成している。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 保育課程は、保育に関わる職員が参画して編成している。 <input type="checkbox"/> 5 保育課程は、定期的に評価を行い、次の編成に生かしている。	<p>[取り組み状況]</p> <p>保育課程は、園の理念や方針・独自性を踏まえ、保育目標達成に向けての計画となっており、それを基に各年令別の年間指導計画を作成し、計画に沿った養護、教育を提供している。</p> <p>[検討課題]</p> <p>保育課程はその時の子どもの心身の発達状態、地域の実態、とりまく環境等を考慮した計画が求められるので、年間指導計画は定期的に評価を行い、妥当性や改善点等について話し合い、次の計画に結びつけることが大切と思われる。</p>
		(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 6 室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を、常に適切な状態に保持している。 <input checked="" type="checkbox"/> 7 保育所内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 8 家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 9 内装等には、木材を利用している。 <input type="checkbox"/> 10 一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。 <input type="checkbox"/> 11 食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている。 <input checked="" type="checkbox"/> 12 手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。	<p>[取り組み状況] 耐震工事に伴い内装も新たに行ったので全体的に清潔感がある。エアコン設置の無いクラスは月案・週案の中で気温、湿度、風通し、水分補給を盛り込み気を配っている。また、人数の多い年長児はホールにおいて活動や午睡を行う等の工夫も視られる。エアコン設置工事もあり、快適な環境が約束されると思われる。</p> <p>なお、トイレ数が少ないため集中しないようにクラスの時間差で使用している。</p> <p>午睡時はクラスごとに音楽を流し、廊下側にカーテンがなかったため、安眠できる明るさへの配慮も始まっている。</p> <p>[検討課題] 子どもの生活にふさわしい環境について、常に意識することは必要と思われる。</p>
		② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 13 子どもの発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人ひとりの子どもの個人差を十分に把握し、尊重している。 <input checked="" type="checkbox"/> 14 子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。 <input checked="" type="checkbox"/> 15 自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 16 子どもの欲求を受けとめ、子どもの気持ちにそって適切に対応している。 <input checked="" type="checkbox"/> 17 子どもに分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。 <input type="checkbox"/> 18 せかず言葉や制止させる言葉を不必要に用いないようにしている。	<p>[取り組み状況]</p> <p>子ども一人ひとりの状態に応じた保育を行うため、月案で予想される子どもの姿、それに対する援助・配慮事項を記載して取り組んでいる。</p> <p>また、子どもの個人差を理解し、無理強いはいないように心掛けている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>子どもを尊重した保育について全職員で話し合い、共通の理解を更に深める事で、一人ひとりの子どもの受容も深まると思われる。</p>	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
		③	子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 19 一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身につけられるよう配慮している。</li> <li>■ 20 基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を行っている。</li> <li>■ 21 基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく、一人ひとりの子どもの主体性を尊重している。</li> <li>■ 22 一人ひとりの子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。</li> <li>■ 23 基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、子どもが理解できるように働きかけている。</li> </ul>	<p>[取り組み状況]</p> <p>基本的な生活習慣の習得を年間指導計画や月案に盛り込み、一人ひとりに合わせながらの援助を心掛けている。特に、1才児及び支援児は個別指導計画を立て発達状況等に応じて支援している。そして、子どものやろうとする気持ちを大切に、達成感や喜びとなるようにしている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>どの子どもにおいても常に保護者との情報交換を密とし、家庭での生活状況、生活リズムに合わせながら支援する事が期待される。</p>
		④	子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 24 子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。</li> <li>■ 25 子どもが自発性を発揮できるよう援助している。</li> <li>■ 26 遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。</li> <li>□ 27 戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。</li> <li>■ 28 生活と遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。</li> <li>■ 29 子どもたちが友だちと協同して活動できるよう援助している。</li> <li>■ 30 社会的ルールや態度を身につけていくよう配慮している。</li> <li>■ 31 身近な自然とふれあうことができるよう工夫している。</li> <li>■ 32 地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。</li> <li>■ 33 様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。</li> </ul>	<p>[取り組み状況]</p> <p>家庭から牛乳パックや空箱等、また給食で出る容器を常に利用できるようにして、子ども達が自由に創作活動などに使っている。</p> <p>今年は子ども会のテーマである「むしのせかい」を全員で力を合わせ取り組み、達成感を共有している。</p> <p>自然とふれあう散歩は異年令で出掛けたり、年長児は小さな子のお世話をする機会も多く設け、関わりを大切にしている。</p> <p>また、地域の方々と接する機会も多く、子ども達が地区の祭り・敬老会・生き生きクラブ等で地域から愛されていることがわかる。</p> <p>園外遊具が自由に使用できない状況や雑草についての対策なども始まっている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>定期的な整備等で、子どもの主体的な遊び、遊びの選択の環境づくりなど、意識することも必要と思われる。</p>
		⑤	乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 34 0歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。</li> <li>□ 35 0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係(情緒の安定)が持てるよう配慮している。</li> <li>□ 36 子どもの表情を大切に、応答的な関わりをしている。</li> <li>□ 37 0歳児が、興味と関心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている。</li> <li>□ 38 0歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている。</li> <li>□ 39 0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。</li> </ul>	<p>[取り組み状況]</p> <p>0歳児の受け入れを行っていないため、非該当とする。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
		⑥ 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		b)	<input checked="" type="checkbox"/> 40 一人ひとりの子どもの状況に応じ、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重している。 <input checked="" type="checkbox"/> 41 探索活動が十分に行えるような環境を整備している。 <input checked="" type="checkbox"/> 42 子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 43 子どもの自我の育ちを受け止め、保育士等が適切な関わりをしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 44 保育士等が、友だちとの関わりの中立ちをしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 45 様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関わりを図っている。 <input type="checkbox"/> 46 一人ひとりの子どもの状況に応じ、家庭と連携した取組や配慮がされている。	<p>[取り組み状況] 未満児の保育室は寝食をゾーンで分け、保健的な安全に留意している。1才児は個別指導計画を立て、一人ひとりの状態に合わせた保育内容を提供している。そして、自分でしようとする動作や自分なりの表現で、保育士やまわりの子どもと気持ちが通うように支援している。また、一人になれる空間や探索できる場、手作り玩具の提供などを工夫し、子ども自らが関わりたくなる環境の整備が始まっている。</p> <p>[検討課題] 遊びの展開を意識した保育環境の整備を更に進め、2才児においても個別指導計画作成の下での、教育的配慮を含んだ保育の提供がこれからも続くことを期待したい。</p>
		⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		b)	<input checked="" type="checkbox"/> 47 3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 48 4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 49 5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 50 子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学先の小学校等に伝える工夫や配慮がされている。	<p>[取り組み状況] 年令別の年間計画や月案で養護、教育に関する計画を立てて実施している。一人遊びやコーナー分けしての一緒に遊び、全員一緒になっての遊びの取り組みなど、その中で相手を尊重し、生活や遊びを通して生活習慣や社会的ルールが身に付けられるよう図っている。また、4才、5才児は個別面談を実施し、保護者と連携しながら取り組んでいる。保育指針にある「幼児期の終わりまで育ってほしい10項目」を視野に入れた保育内容となっている。</p> <p>[検討課題] 就学先の学校環境(トイレ等)に合わせた内容での取り組みも必要と思われる。</p>
		⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		b)	<input checked="" type="checkbox"/> 51 建物・設備など、障害に応じた環境整備に配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 52 障害のある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 53 計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 54 子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 55 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 56 必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。 <input checked="" type="checkbox"/> 57 職員は、障害のある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得ている。 <input type="checkbox"/> 58 保育所の保護者に、障害のある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。	<p>[取り組み状況] 心身の状態を把握しながら個別指導計画を立てて、クラスの子ども達と共に育ちあえるよう支援している。理解が難しい事柄は順序のカードを用意し、視覚で分かるように工夫をしている。また、療育相談を通して専門的なアドバイスや指導方法を得て、本人に合わせた保育内容となるよう努めている。</p> <p>[検討課題] 気になる子どもの関わりに苦慮している場面がみられる。保護者の思いや不安に寄り添いながら、子どもの最善について話し合うなど、保育士の専門性の発揮が期待される。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
		⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		b)	<input type="checkbox"/> 59 1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 60 家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。 <input checked="" type="checkbox"/> 61 子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。 <input type="checkbox"/> 62 年齢の異なる子どもと一緒に過ごすことに配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 63 保育時間の長い子どもに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 64 子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 65 担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。	<p>[取り組み状況]</p> <p>1つの保育室で全員が過ごし、異年齢児との関係が深まる利点と長時間利用の中でリラックスして過ごせる時間の確保の難しさが視られる。長時間保育日誌には保育の内容や子どもの様子が記録されている。</p> <p>また、子どもの情報については書面を通して日中の情報や長時間保育の情報を共有する仕組みが始まり、それぞれの保育士が子どもの一日の全体像を把握できる環境となっている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>長時間保育では日中保育とのバランスや各保育内容等に合わせた計画的な活動を期待したい。</p>
					⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	b)
	(3) 健康管理	① 子どもの健康管理を適切に行っている。		b)		

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
			② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 79 健康診断・歯科健診の結果が記録され、関係職員に周知されている。</li> <li>■ 80 健康診断・歯科健診の結果を保健に関する計画等に反映させ、保育が行われている。</li> <li>■ 81 家庭での生活に生かされ保育に有効に反映されるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝えている。</li> </ul>	<p>[取り組み状況] 健康診断・歯科健診の結果を家庭に知らせ、必要な子どもには受診を勧めている。特に、歯科に関しては治療証明の提出をお願いしており、親子歯みがき教室、フッ化物塗布教室を開催したりして、園児が歯や身体について関心を持てる取り組みをしている。その計画評価で反省点があれば次の計画に取り入れ、健康に関しての継続的な支援を行っている。</p> <p>[検討課題] ばらつきのある子どもの昼食後の歯磨きは、確認や仕上げ磨きは必要であろう。</p>
			③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 82 アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。</li> <li>■ 83 慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示のもと、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。</li> <li>■ 84 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。</li> <li>■ 85 食事の提供等において、他の子どもたちとの相違に配慮している。</li> <li>■ 86 職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修等により必要な知識・情報を得たり、技術を習得している。</li> <li>■ 87 他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を行っている。</li> </ul>	<p>[取り組み状況] 食物アレルギー児童対応マニュアルをもとに手順に沿った対応をしている。食事提供はフローチャート通りの工程で、間違いのないように数段階でのチェックを行い、安全を心掛けている。保護者とは情報を密とし、職員間で共有している。 また、職員は研修で理解・知識を深めるとともに、エピペンの使用練習も定期的実施している。子どもにはアレルギー疾患の話をして、注意する事と守ってほしいことの約束している。</p> <p>[検討課題] 保護者の方々にもアレルギー疾患についての正しい理解の推進、また、他の子ども達や保護者に対しても、疾患で該当児への偏見等へつながらないようにする取り組みは期待したい。</p>
		(4) 食事	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 88 食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置づけ取組を行っている。</li> <li>■ 89 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。</li> <li>■ 90 子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。</li> <li>■ 91 食器の材質や形などに配慮している。</li> <li>■ 92 個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。</li> <li>■ 93 食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。</li> <li>■ 94 子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。</li> <li>■ 95 子どもの食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。</li> </ul>	<p>[取り組み状況] 食育に関するマニュアルや指導計画で、楽しく食べる子ども(食を営む力)の基礎を培う取り組みを実施している。また、未満児は寝食ブースを分けた衛生的な配慮、自分で食べようとする気持ちを大切に、楽しい雰囲気づくりにも心掛けている。 個人差が特に大きい1才児は個別指導計画に組み入れ、状態に合わせた支援をしている。 以上児は畑での野菜作り、地域の協力でのさつま芋の苗植えからの収穫や、さくらんぼ・ブルーベリー狩りなどの体験を通しての食物の生育への関心を高め、当番活動や食事の片付け、子ども会では実際に調理の手伝いをする等、日々の生活や活動の中で食への関心がもてるよう取り組んでいる。</p> <p>[検討課題] 給食のサンプルケースはないが本日の献立を掲示し、子どもたちに給食が楽しみとなるようにしている。 掲示に当たっては写真や絵・図などの視覚で分かる様にする、どの子どもにも更に分かりやすいと思われる。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
			② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 96 一人ひとりの子どもの発育状況や体調等を考慮した、献立・調理の工夫をしている。</li> <li>■ 97 子どもの食べる量や好き嫌いなどを把握している。</li> <li>■ 98 食事の内容は、県産の農畜産物等を利用したものである。</li> <li>■ 99 残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。</li> <li>■ 100 季節感のある献立となるよう配慮している。</li> <li>■ 101 地域の食文化や行事食などを取り入れている。</li> <li>■ 102 調理員・栄養士等が、食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。</li> <li>■ 103 衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。</li> </ul>	<p>[取り組み状況]</p> <p>子ども一人ひとりの好き嫌い、食べられる量を把握し、苦手な食材や自分で納得した量を食べきった時は褒めて達成感が持てるようにしている。</p> <p>また、毎月1回は食育の日として、その月の旬の食材や郷土食・伝統食等の提供で食について関心が持てる取り組みもしている。</p> <p>調理員は毎日子ども達と一緒に食事をし、食の進み具合や感想を把握し、保育士からの声も含めた給食日誌を記録している。</p> <p>さらに、栄養士からのコメントを得たりして、辰野町全園給食会で食育についての話し合いも設けている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>献立表や給食便りを保護者に配布しているが、園での食育に関する方針・取り組みについての情報や報告がされていないことが残念に感じる。また、子どもたちに特に好評だったメニュー・レシピを配布するなど、保育園と家庭との食育についての繋がりを期待したい。</p>
	2 子育て支援	(1) 家庭との緊密な連携	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 104 連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。</li> <li>■ 105 保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。</li> <li>■ 106 様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるよう支援をしている。</li> <li>□ 107 家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。</li> </ul>	<p>[取り組み状況] 保育士体験ができるクラスへの保育参加の取り組みをして、集団の中での子どもの姿や友達との様子、また、保育士が子どもへの関わり方や声かけを見せて家庭での保育の支援としている。そして、連絡帳や参観日、年中・長児の個別面談の実施で、情報の交換・保育内容について等、話し合ったりして連携に努めている。</p> <p>[検討課題] 連絡帳の記録内容について話し合い、バラツキのない内容とし、一日の様子で成長の喜びを保護者に的確な記述で伝えられる専門性等、記録を通して両者が成長できる取り組みは必要と思われる。</p>
		(2) 保護者等の支援	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 108 日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。</li> <li>■ 109 保護者等からの相談に応じる体制がある。</li> <li>■ 110 保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている。</li> <li>■ 111 保育所の特性を生かした保護者への支援を行っている。</li> <li>□ 112 相談内容を適切に記録している。</li> <li>■ 113 相談を受けた保育士等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。</li> </ul>	<p>[取り組み状況]</p> <p>保育者の子育ての悩み・不安・相談等に対しては、個人面談や家庭訪問・療育相談を通して把握して応じている。また、日々の送迎時は会話や声掛けを多くし、気軽に相談できるように心掛けている。そして、子育てについての有効な情報や催しについては保護者に知らせ、役立てられるよう図っている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>担当保育士の関わりだけでなく、必要に応じて園全体で考えたり、時には専門機関へ繋げるなど、安心して子育てができる環境の整備は必要であろう。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	講評
			② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。		<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 114 虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。</li> <li>■ 115 虐待等権利侵害の可能性があると感じた場合は、速やかに保育所内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。</li> <li>□ 116 虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。</li> <li>b) <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 117 職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促すための取組を行っている。</li> <li>■ 118 児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。</li> <li>■ 119 虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。</li> <li>□ 120 マニュアルにもとづく職員研修を実施している。</li> </ul> </li> </ul>	<p>[取り組み状況]</p> <p>子どもとの日々の生活の中で、心身の状態や会話で把握するように注意を払っている。 また、疑いがみられた場合はマニュアルに沿って関係機関に繋げる体制は整っているものの、職員へはマニュアルの配布のみで、その理解は十分とは見えない。</p> <p>[検討課題]</p> <p>虐待マニュアルの「虐待を疑わせる具体的状況」について学習し、単に傷があるかの判断でなく、ネグレクト・親の機能不全など、早期の発見ができる専門性が必要と思われる。 また、保護者の状態や状況を把握し、精神面で支えていくことも大切と理解したい。</p>
	3 保育の質の向上	(1) 保育実践の振り返り(保育士等の自己評価)	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。		<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 121 保育士等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返り(自己評価)を行っている。</li> <li>■ 122 自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮している。</li> <li>■ 123 保育士等の自己評価を、定期的に行っている。</li> <li>□ 124 保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。</li> <li>■ 125 保育士等の自己評価にもとづき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。</li> <li>□ 126 保育士等の自己評価を、保育所全体の保育実践の自己評価につなげている。</li> </ul>	<p>[取り組み状況]</p> <p>指導計画に基づいて担当保育士は保育実践を客観的に振り返り、定期的に自己評価を行い、改善点や気付きを次の計画に生かしている。 また、その自己評価を職員会で発表している。</p> <p>[検討課題]</p> <p>個々の自己評価を基に、園全体の評価へと繋げることで、計画性を持った質の向上への新たな取り組みも容易に見えてくると思われる。</p>